



日本の「眠度」

「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」(「孫子・謀攻篇」)
孫子こと孫武が春秋時代の紀元前5世紀に物したとされる兵法書の一節は、洋の東西を問わず「弁

ボリス・ジョンソン、ウラジミール・プーチンも驚愕する数多の問題先送りを恬として恥じぬ、非弁証法的「決断」が「良民常民」の支持を集めています。

世界に冠たる国民皆保険制度は「早期発見・早期治療」の基本に忠実なればこそ堅持し得たのです。疾病のみならず疫病の場合に於いても。にも拘らず、地球上を席卷する今回のCOVID-19への「後手後手」を「先手先手」と居直るのが令和ニッポン。

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議。メンバーの大半は秘密組織・関東軍防疫給水部#731部隊の残党が集った国立予防衛生研究所が改組された、新宿区戸山の旧日本陸軍軍医学校の跡地に位置する国立感染症研究所で栄達を遂げた、「知らしむべからず」DNAを継承する面々です。

証法」の公理そのもの。
が、「臭い物に蓋」こそ世界に誇るべき「江戸しぐさ」と嘯く「極東の島国ニッポン」では、口先賢人のドナルド・トランプ、

エビデンス、クラスター、オーバーシユート、ロックダウンetc。西新宿の「緑のおばさん」はいざ知らず、片仮名を使うなど各方面から茶々を入れられ続けた石原慎太郎翁や不肖田中康夫も顔負けな符牒の数々。偏に「後手後手」の証拠を和らげ、良民常民を煙

に巻く為の印象操作なのです。他方、もう一つの基本たる「早期診断・早期検査」は「医療崩壊」を齎すと巧言する医者擬きや学者擬きが子子の如くに湧いています。

スギ花粉がラグビーボール大とするなら、ゴマ粒程度の大ききで、電子顕微鏡でしか確認出来ないのがコロナウイルス。「無色・透明・無臭」で人間の五官が察知し得ぬ放射能と「相似形」なのを逆手に取り、「経済的新自由主義」の自家撞着を看破したナオミ・クラインの『ショック・ドクトリン』を、有ろう事か良民常民に向けて、誤用。メデイカル・コラプスならぬ「医療崩壊」の四文字熟語を持ち出しています。

2009年新型インフルエンザA(H1N1)の日本に於ける致死率は0・16%。02〜03年に中国や香港で猛威を振るったSARS重症急性呼吸器症候群の致死率は12%。今回もパンデミック云々以前に、「致死率1%の壁」を日本も超えているのか否かを確認すべき。『動的平衡』の福岡伸一、『逃走論』の浅田彰の両氏と意見の一致を見たのが、医療機関に出向かずとも実施可能な全国規模での感

染率「早期調査」です。無作為抽出で47都道府県+20政令指定都市それぞれ数百人、米英も導入済みスイスのロッシユ、韓国のコジエン・バイオテック両社の迅速検査キットで実態調査すれば、3月23日現在で3・81%の日本国内、愛知県に至っては11・11%もの致死率を如何に捉えるべきか、「専門家」ならずとも認識を共有可能。なのに「検査不可・自宅待機」の修身を説く「Tokyoインパール2020」。

抑も「状況がアンダーコントロール」されているからこそ立候補した開催国は、豈因らんや「優柔不断」な問題先送りを続け、IOC国際オリンピック協会なる黒船「ハゲタカ号」に著の上げ下げを委ねる局面に至つても猶、中は困ると御託を述べています。

「意気地のなさ」は「誤送船団」記者クラブとて同然。3月18日付「ザ・ニューヨーク・タイムズ」が「Cancel the Olympics」と見出しを冠して最後通牒しても、「強行・延期・中止」の何れの茨の道を決断すべきか、何れの媒体も意見表明しなかつたのです。嗚呼、幸いなるかな、心貧しき国家よ。

★次号の月号の発行口はもう一回田中。